

ニュースレター

いりおもての森から



林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
令和2年12月発行 No.59号

「令和2年度 九州森林管理局森林・林業技術交流発表大会」 で最優秀賞を受賞！

10月28日（水）に、九州林政連絡協議会主催による「令和2年度森林・林業技術交流発表大会」がコロナ禍の中オンライン方式で開催され、管内の森林管理署及び3センター、（国研）九州整備局、九州4県や高等学校等から森林・林業の技術の向上等に係る各種研究、取り組みの発表が行われました。当センターからは、森林ふれあい部門に『「西表樹木かるた」を用いた森林環境教育の普及啓発について』を発表しました。当センターで西表島における森林環境教育に活用することを目的に作成した「西表島の植物誌」に合わせて、小学校低学年の児童にもゲーム感覚で樹木を理解できる教材の開発に取り組んだものです。永山博美生態系管理指導官が発案者となり、西表島内の小学校の教職員や児童等へのアンケートやそのとりまとめ、後藤直哉専門官がパワーポイントの整理や発表を行いました。

その結果、なんと最優秀賞に輝きました。

二人の感想は、「信じられない。」「思ってもいなかったが最優秀賞で良かった。」などと喜びを隠しきれずにいました。その日は業務終了後、センター職員4人でマスク着用の中、祝賀会が催されたことは言うまでもありません。

当センターでは、今後も幾度か試行改良を繰り返しながら「西表樹木かるた」の普及に取り組んでいくこととしています。



「受賞を喜ぶ二人」 向かって右から

永山指導官、後藤専門官



西表樹木かるた



各小学校への説明

中学生奮闘「浦内川を筏で川下り」 (西表島の中学校の三大行事を支援（船浦中学校編）)

竹富町立船浦中学校の三大行事の一つ「浦内川筏下り」が10月31日（土）に行われ、全校生徒31名と教職員、保護者、支援者を含む総勢62名が参加しました。当センターから職員2名と沖縄森林管理署・租納森林事務所森林官が行事支援として参加しました。

この三大行事は、①自然に親しみ学ぶ態度を育てる。②学習の過程で「探究」「創造」「協働」する力を養う。③地域や保護者の方々への感謝の気持ちを育むことの3点を目的に、「西表島横断」「テドウ山登山」「浦内川筏下り」を3年間で1回ずつ行い、全校生徒が3年間で全ての行事を経験するものです。

当日は、7時45分に浦内川駐車場で出発式を行った後、浦内川上流の軍艦岩まで観光船で移動し、生徒と教職員は5艇の手作り筏に分乗、支援する保護者等は動力船やゴムボートに乗り、9時から筏下りを開始しました。生徒たちは、最初はなかなか進まない筏に悪戦苦闘していましたが、徐々にコツを覚え、各要所ポイントで地元ガイドから地層やサキシマスオウノキ等の説明を聞いたり、浦内川の支流にある滝で休憩したり、昼食休憩中にSUPを楽しんだりとゆっくと下っていきました。

ゴール前のチェックポイントでは、琉球大学の渡辺准教授からオヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギの葉や根の違い等のクイズや上流地点と下流地点での塩分濃度の違いの説明を受けるなど、海洋学習にもしっかり取り組んでいました。

最後は5艇での競争が始まり、櫂で漕ぐ艇、みんなで筏を押ししたり引っ張ったりする艇があったりと、残っている力をそれぞれ出し尽くし、全員無事ゴールし生徒たちの記憶に残る一日となったと思います。



出発！！



なかなか進まない筏に悪戦苦闘



ガイドによる地層説明



各筏、奮闘中

「ウブンドルのヤエヤマヤシ」を10年ぶりに調査

ヤエヤマヤシは、西表島と石垣島にのみ生育する1種1属の固有種とされています。大きな群落では、西表島の仲間川中流に生育する「ウブンドルのヤエヤマヤシ群落」、西表島の星立及び石垣島の米原の群落があり、ともに国指定の天然記念物に指定されています。

近年の地球温暖化や異常気象による影響が懸念されていることから、平成21年にウブンドルのヤエヤマヤシの現況調査が実施されました。それから10年が経過しますが、相変わらずの異常気象や相次ぐ大型台風の襲来等、ヤエヤマヤシの生育が懸念されることから、およそ10年ぶりとなる調査を実施しました。調査は、ヤエヤマヤシ群落に影響のないようにヤエヤマヤシの樹高、胸高直径と周辺の植生調査等、簡易な調査に止め、標識やタグの設置は行わないこととしました。調査は急傾斜地であることや、ハブに遭遇する等危険と隣り合わせの状態でしたが、安全確認に怠りはなく、無事に終了することができました。

今回の調査で、ヤエヤマヤシの群生がわずかながら広がり、枯れているヤエヤマヤシも見受けられましたが、本数は若干増加していることがわかりました。



ハブ（こんな感じですよ）



ヤエヤマヤシ

「西表島横断」を敢行

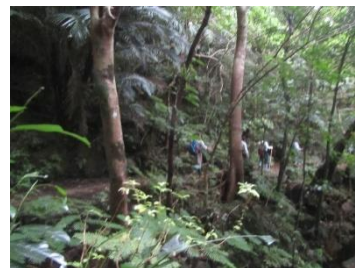
西表島は、希少な固有種に恵まれ、原生的な自然を有していることから、国内外からのさまざまな方が訪れます。その一方で、古くから住民の生活道として利用されてきた道が未だに残っています。しかし、最近では地元の利用者も少なく、来島者が登山道として利用している歩道があります。それが、西表島横断道です。当センターでは沖縄森林管理署と一緒に、今回現地のパトロールを行いました。ここは10月初旬でも30°近くになります。独特の湿気と11kmの道のりです。ハブ対策と川を歩くことになるので長靴による登山です。途中にはハブやヤマンギと呼ばれる毛虫、毒虫等障害は多いですが、歩道整備を行いながらおよそ11時間かけて横断しました。かなりの健脚コースなので、登山ガイドなしでは絶対におすすめできません。



良い感じの景色



マリユドウの滝



パトロール風景

希少野生動植物の密猟・盗掘等防止パトロールを実施

10月中旬から11月上旬にかけて希少野生動植物の密猟・盗掘等を防止するために関係機関による夜間パトロールを実施しました。この時期は昆虫採集が多く、その採集者を対象に採取規制区域の周知、希少動植物の密猟、盗掘等に対する協力要請等を実施しました。



地元交番駐在と警戒中



入林者に説明中



パンフレット (表)



パンフレット (裏)

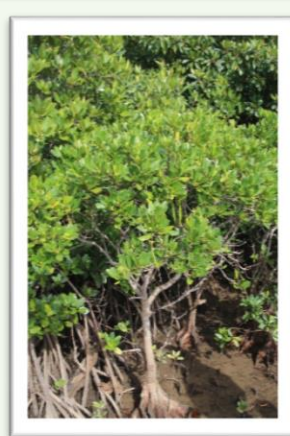
お知らせ！
 国有林に入る際には、入林届けが必要です。
 西表島森林生態系保護地域内において、動植物の採取には保護林調査許可が必要です。
 西表島はほぼ全域が国立公園です。特別保護地区での動植物の採取やトラップの設置、特別地域でのトラップの設置には、事前に許可が必要です。
 詳しくは、林野庁 沖縄森林管理署 大原森林事務所、租内森林事務所、
 環境省 西表自然保護官事務所
 竹富町 世界遺産推進室 へお問い合わせください。

マングローブを紹介のコーナー（メヒルギ）

メヒルギは、オヒルギ等とともに、マングローブ林の構成樹種になっています。マングローブ林の中でも下流に生育します。西表島では、浦内川河口付近に多く見られ、花（萼）の色は白色で地上根は板根を作り台風による強風でも幹が倒れないよう丈夫になっています。実は胎生発芽（胎生種子）し、長さ 20 cm、径は 1.5 cmほどの形をしています。



「胎生種子」



「板根」

西表島の植物 （リュウキュウガキ）

- ◇ 学 名：Diospyros maritima
- ◇ 科 名：カキノキ科
- ◇ 特 徴：山地に生育する常緑の中高木で、樹皮はなめらかで黒褐色をしています。若い枝ははじめ小さな毛がまばらに生えますがのちに毛はなくなります。葉は薄い革質で表面は光沢があり、裏面は無毛で長さ5～17 cm、幅3～9 cmです。実は球形ではじめ黄褐色の毛がありますが、あとから無毛になります。大きさは、径2～3 cmで黄色く熟しますが実は有毒です。
- ◇ 分 布：鹿児島（徳之島以南）、沖縄、台湾 など

